

## 第5回「ふくまる夢たまごセミナー」

日 時 11月19日（金）18：00～20：00

場 所 市庁舎7階大会議室

内 容 「子どもの見えないランドセル」

講師 池田市立ほそごう学園 教諭 奥田 雄大 氏

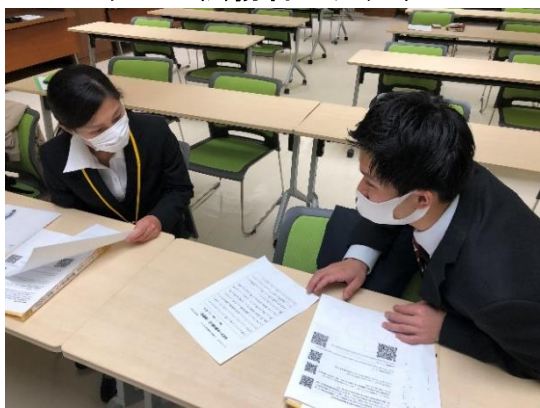
今回は、池田市人権教育研究協議会事務局長として本市の人権教育をけん引されている奥田先生（ほそごう学園教諭）をお迎えして、身の回りにある人権課題について理解するとともに、教員をめざす者としての心構えについてお話いただきました。

セミナーはグループワークを中心に進められました。まずは、自己紹介を兼ねたワーク1：「アイデンティティの細胞」



「①うなずこう②秘密は守ろう③言いたくない時はパスOK」という安心ルールのもと、これこそ自分と思える自分の特性（どのような社会的集団に属しているか、趣味や性格は、生活に関わること）について自覚するというものでした。

### ワーク2：法務省がアナウンスしている17の「個別の人権課題」



女性の人権、子どもの人権、障害を理由とする偏見や差別、同和問題（部落差別）等々17の人権課題を列挙するのは塾生にとって少々難しいものでした。ヘイトスピーチ対策法・障害者差別解消法・部落差別解消推進法（2016年制定）、アイヌ新法（2019年制定）に焦

点をあて、今社会でどんなことが起きているのか、なぜこんな法律ができたのかについて具体的に教えていただきました。「法律が制定された後、事案件数は減少してきているが、見えにくくなっている現実がある。教職員をめざす立場としたらこういったことを知っておくことは大切だ。」と結ばれました。

### ワーク3：アンコンシャスバイアス（無意識の偏見、無意識の思い込み）



「学校現場には、隠れたカリキュラムといって、学ばないうちに学んでしまうことがたくさんある。教育する側が意図する・しないに関わらず、学校における制度や慣行、教員の言葉や態度などを通して、学校のフォーマルなカリキュラムの中にはない、知識、行動の様式や性向、意識やメンタリティが、教師や仲間の生徒たちから学び取られるものがある。」ことを、具体例として、子どもの呼称やトイレの表示色、無意識のうちに性別と職業を結びつけて考えてしまうことなどで分かりやすく解説されました。

### ワーク4：ステップアウトエクササイズ（自身が無意識に持つ特権）



質問に対して当てはまれば(+)、当てはまらなければ(-)と記録していく作業を通して、自身が無意識に持つ特権によって発する何気ないひとことや些細な行動に、立場の弱い人たちは恐れや不安をいだき、ストレスや無力感を感じることがあることを知り、力をもっている人ほど自分自身のもつ「力」を自覚し、意図的に取り扱う必要性について学びました。

最後に、奥田先生に演題「子どもの見えないランドセル」についてお伺いしました。

「法務省がアナウンスしている17の個別の人権課題や今日学んだ身近な人

権課題は、子どもが背負ってきているということでランドセルとしています。子どもたちは何かを背負って学校に来ている。具体的に言うと、宿題をしてこない子、忘れ物をする子、遅刻する子、やる気のない子達を一面的に見て、『宿題やってこいよ。』とか『どうして忘れ物ばかりするねん。』『家どうなってんねん』などと教職員間で話すことがあります。子どもを見る角度を変えると、17の人権課題やそれに類するものを背負って毎日学校に来ています。子どもの環境や社会が変わらないと、その子が頑張れない解決できない課題を背負っている子もいるのです。そこが見えないランドセルという部分です。

教師をめざす者として、子どもを学校で見せる姿だけで判断しない、子どもと良い関係を作って、子どもが自身の課題を言えるような関係を作っていくことを心掛けてください。さらに、そのことが社会の課題にもつながっているのではないかと世の中で起きている差別を知り続けてください。」

### 【塾生の感想より】

○今回のセミナーを通して感じたことを2点まとめます。1点目はアンコンシャスバイアスについてです。ワーク1の文章は、「どういうこと？」となってしまい、私自身無意識の偏見を持っていたことに気づきました。教育現場に入った時に、子ども達が自然と学ぶ場面を教師が作っている可能性があると思い、怖いなど安直ですが感じました。2点目は一つひとつの言葉に対してです。教師の何気ない言葉が、子ども達の人権を傷つけていることに気づきました。私自身、まず知識を身につけ、学び続ける意識を持つこと。そして、人権感覚を研ぎ澄ませながら、コミュニケーションをとることを心掛けたいと思うきっかけになりました。

○今回のセミナーでは、私が普段あまり意識していないことについての内容が多く、その内容について気づくことができました。部落差別の問題について、ネット上にそういった書き込みが今でも多くあるという話を聴いて、これまで自分がそういった内容を見た時に、少し不快に思うことがあっても無視していることが多く、深刻に考えず流してしまうことが多かったと思いました。他にも、アンコンシャスバイアスのように、無意識のうちに常識だと思って偏見をもつてしまうことが少なからずあると気づきました。これから教育に携わる者として、自分が話すときなどに「この表現でいいのか？」ということを常に考えなが

ら、ひと言ひと言に気を付けていきたいと思いました。

○今日のセミナーでは、日本に存在する17の個別の人権課題について知り、ワークを通して、自分の中に刷り込まれているジェンダーバイアスと特権について気づきました。差別や偏見については、自分はしていないと書いていても気づいていないだけだったこと。今は存在しないのではなく、ネット上にはたくさんあふれている現実があり、教育の現場でこれから子ども達に伝えていく者として、自分自身が正しい知識を持ち理解を深めていく必要があると感じました。ステップアウトエクササイズでは－(マイナス)の項目が少なく、自分が育ってきた環境の中で、当たり前なのが、目の前の子どもにとってはどうなのかを常に考えながら来年から過ごしたいと思います。

○人権に関することは、授業でどんな風に習ったか記憶になかったり、もともと知っている知識の低さが自分自身にあたりしだったので、私のこれまでの人生の中であまり関わりのないことだったのかなと思いました。それだけに、子どもへの声掛けは、正直気を使わなければいけないことが沢山あって大変だなと感じました。今日学んだことを含めて人権に関する知識を養うことは、私にとって重要な学びだということが分かりました。現場実習に行った際には、子どもの背景にも意識しながら声掛けをしていきたいと思います。